平成 25 年（2013）8 月 10 日（土）

史跡大山崎瓦窯跡（しせきおおやまざきかわらがまあと） 現地説明会資料

調査次数　大山崎町第 69 次遺跡確認調査（7YYMS' EG10 地区）
調 査 地　京都府乙訓郡大山崎町字大山崎小字永福寺
調査対象　史跡大山崎瓦窯跡（1 号窯・9 号窯・10 号窯）
調査期間　平成 25 年 5 月 31 日～8 月中旬
調査面積　150 ㎡
調査原因　史跡整備に伴う発掘調査
調査主体　大山崎町教育委員会

調査成果

〔経過〕

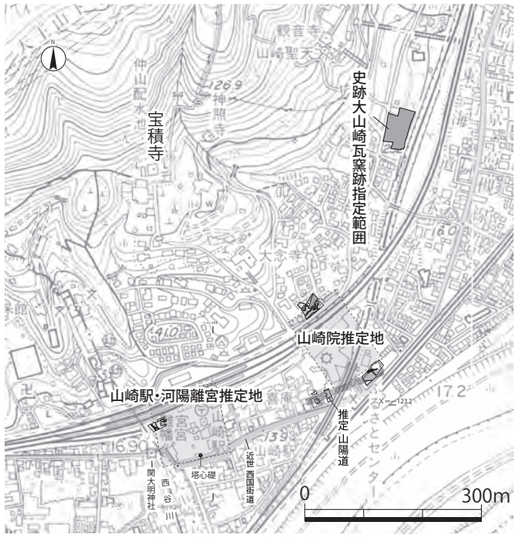
史跡大山崎瓦窯跡は、平安遷都（794 年）直後に成立した瓦の生産地です。主に平安京、京外の諸寺のほか、嵯峨院や山崎に所在した河陽離宮など嵯峨朝の離宮の瓦を生産しています。平成 16 年に実施した調査において、6 基の瓦窯が検出され、国の史跡に指定されました。また、その後の北隣接地の調査において 2 基の瓦窯が検出され、大規模な瓦生産地であったことが判明しています。

〔成果〕

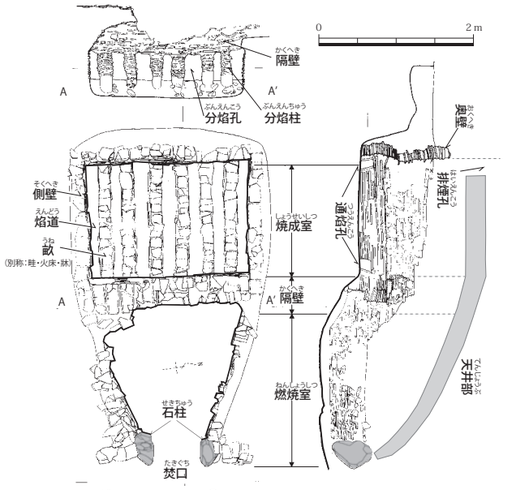
今回の調査は、今後の整備に必要な情報を得るために実施いたしました。その結果、1 号窯に連続して西側に 2 基の瓦窯を検出し、これを 9 号窯・10 号窯と銘名しました。また、これらの北側には排水溝が、南側には前庭部の建物の柱穴が検出されています。これらは、2 号窯から 6 号窯における瓦窯と排水溝・前庭部建物などの付属施設を約 270 度回転させた位置関係で配置させています。10 号窯の周囲で出土した瓦片は、西側から廃棄された状況で堆積していますので、この西側には、さらに瓦窯の存在が予測されます。

〔まとめ〕

今回の調査では、南に開口する瓦窯群の存在が明らかになりました。この一群は、東へ開口する北・南二つの群と同じ規格で配置され、各瓦窯も同じ規模で統一されています。したがって、大山崎瓦窯は、全体として大規模な操業を成立当初から計画的に実施した姿として理解できます。このあり方は、遷都に伴う大量の需要に対して、瓦生産を計画的に実施しようとした平安京の造瓦体制の実態が反映されているといえます。

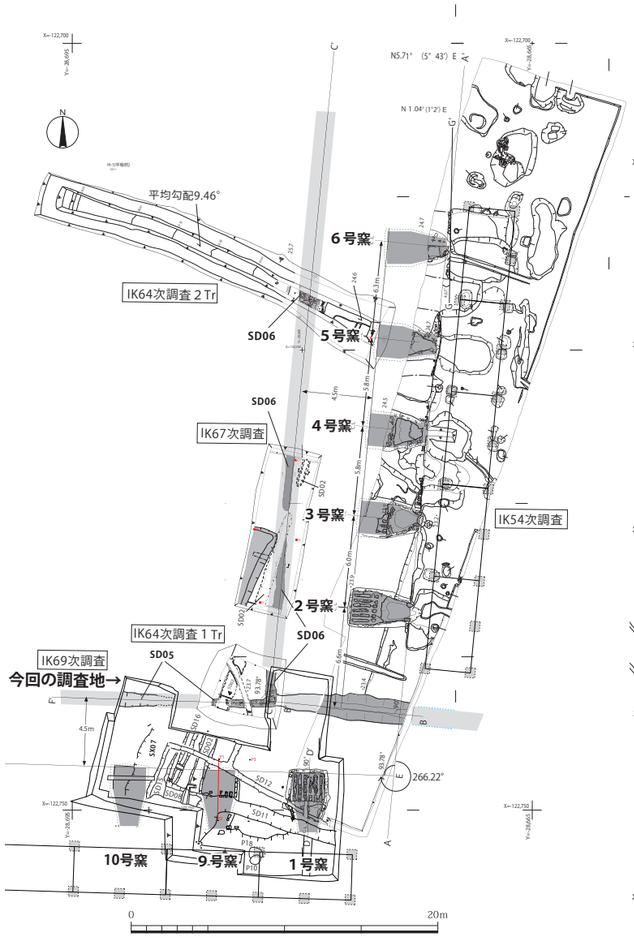


第 1 図　調査地位置図

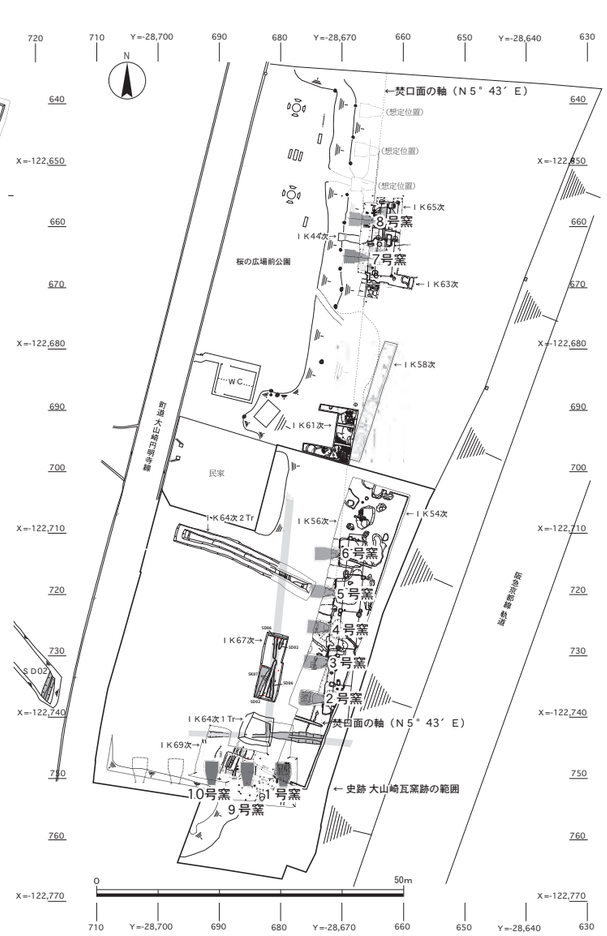


第 2 図　平窯模式図と各部の名称
（西賀茂瓦窯角社東群 2 号窯）

写真 1　1 号窯の窯材に使用された軒丸瓦
OY102 型式（西賀茂瓦窯からもち運ばれた瓦笵）



第 3 図　史跡指定地平面図（1：400）



第 4 図　大山崎瓦窯全体平面図（1：1,000）

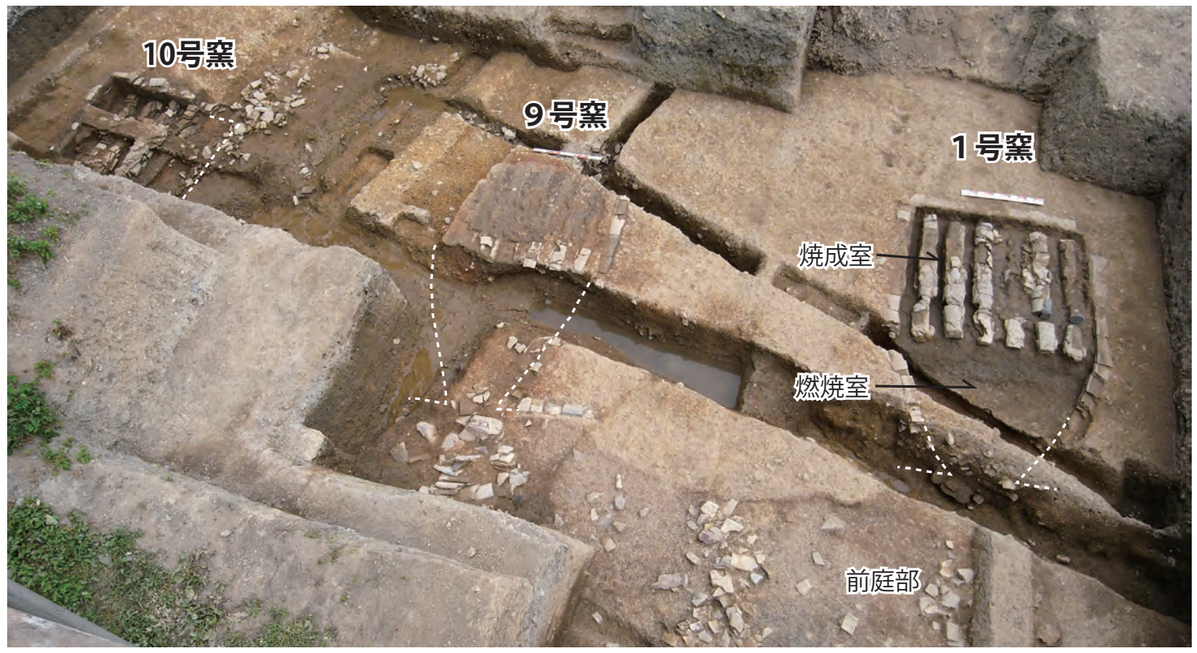


写真 2　左（西）から 10 号窯・9 号窯・1 号窯（南から撮影）